

2026年6月1日

## AI時代の薬学教育とは何か



### AI時代の薬学教育とは何か

知識を覚えるだけの時代は終わった。  
これからの薬剤師に必要なのは、  
「何を問いかけるか」「どう考えるか」「どう人に寄り添うか」だ。  
AIは答えをくれる。  
しかし、問いを立てるのは人間である。  
薬学教育は、知識教育から人格教育へ。  
未来の患者を支えるのは、  
知識ではなく、人間力である。

日本経済新聞に「AIが問う大学教育」という特集記事が掲載されていた。生成AIの登場によって大学教育は大きな転換点を迎えている。レポートはAIが書き、要約も行う。国家試験レベルの知識問題にも高い精度で答える。これまで大学が評価してきた「成果物」は、もはや人間だけのものではなくなった。しかし教育の価値が失われるのではなく、むしろ教育の本質が問われる時代が始まったと言えよう。

薬学教育も例外ではない。これまで薬学教育は知識の習得を重視してきた。薬の名前を覚える。作用機序を理解する。副作用や相互作用を学ぶ。それらは薬剤師として必要不可欠な基礎である。

しかし生成AIが膨大な知識を瞬時に検索し整理できる時代において、「知っていること」だけでは専門職としての価値を示すことはできない。未来の薬剤師に求められる能力は知識量ではない。問いを立てる力である。例えば、「高血圧治療薬を挙げよ」という問いにはAIが答える。しかし、「独居高齢者で腎機能が低下し、服薬アドヒアランスにも課題を抱える患者をどのように支援するか」という問いには正解が一つではない。

患者の生活がある。家族がある。地域がある。人生がある。そこに必要なのは知識だけではなく、人間を理解する力である。

私は以前、中森会長が「AI はピアノのようなものだ」と語られていたことを思い出した。同じスタインウェイを弾いても、初心者とビル・エヴァンスではまったく異なる音楽が生まれる。AI も同じである。違いを生み出すのは AI ではない。それを使う人間である。だから AI 時代には経験の価値が高まる。

本を読むこと。  
音楽を聴くこと。  
旅をすること。  
人と出会うこと。  
失敗すること。  
悩むこと。  
そして考え続けること。

そうした経験の積み重ねが、人間への理解となり、薬剤師としての判断力となる。AI は知識を与える。しかし、感動することはできない。人生に迷うこともできない。患者の沈黙に耳を傾けることもできない。薬剤師という仕事は、薬を渡す仕事ではない。人の人生に伴走する仕事である。だから AI が進化するほど、人間そのものの価値が問われる。

AI 時代の薬学教育とは、知識を詰め込む教育から人格を育てる教育への転換である。未来の薬剤師に必要なのは、「何を知っているか」ではなく、「何に心を動かされ、何を問い続けるか」である。

生成 AI は大学教育を壊さない。むしろ忘れられていた教育の本質を照らし出している。AI 時代とは、人間の価値が失われる時代ではなく、人間とは何かを、もう一度学び直す時代なのである。

石川県薬剤師会 AI 理事エヴァ